

# Oh!Me

オー!ミー

インターネットと連動した  
【滋賀生活情報紙】



この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています

滋賀ガイド [www.gaido.jp](http://www.gaido.jp)

vol.32・7月22日号 毎週木曜発行 **3面にプレゼント情報!**

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマブラ:近江八幡市桜宮町289 TEL0748-34-8870

●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603

●発行/毎日新聞大阪本社販売促進部:大阪市北区梅田3-4-5

発行部数:100,000部

素敵な人!



2004年第11回  
いで湯の郷  
長島リバーサイド  
マラソン大会(ハーフ)  
女子の部 優勝

太田歯科医院

太田 容子さん

今回の素敵な人は彦根の小児歯科医・太田容子さん(38歳)。フルマラソンに挑戦する「体育会系歯医者さん」です。



## SUMMER GREETING

暑中お見舞い申し上げます  
Oh!Me スタッフ一同

# ママさんランナーは 歯医者さんだった!

しい歯医者さんなら小さな子供も  
安心して診察を受けられそう。

### 走ることが自分の時間

太田さんの一日は、朝4時に起床し、1時間走ることから始まります。その後、家事をこなして仕事に。2人の子供がいながら走るようになったきっかけは?

「97年の『彦根シティマラソン』に出場した妹を応援したときのことで。大勢のランナーを間近に見て『来年はわたしも走りたい!』と強く思いました。あれがマラソン人生の始まりでした」。

太田さんは、もともと走ることが好きでした。それが結婚して子供が生まれ、仕事や育児に追われるようになると、走ることはもちろん自分の時間も持てなくなってしまいました。しかし、マラソンを決意して毎朝走るようになってからは、わずかですが自分だけの時間が持てるようになりました。

### 実感「継続は力なり!」

始めは10分間走るだけでヘトヘトに。それでも続けられたのは「継続は力なり!」を実感したから。2週間で15分間、1ヵ月で30分間走れるようになりました。そしてついにフルマラソン2時間47分49秒という自己ベスト記録を持つまでに! (ちなみに日本記録は高橋尚子選手の2時間19分46秒)。

今後の目標は来年こそ2時間45分を切ることに、そして将来は娘さんと一緒にフルマラソンを走ることが夢だそうです。

太田さんから印象的な言葉をもらいました。「人と比べるのではなく、自分が前より成長したといえることが大切だと思います」。目標に向かってひたむきに努力することが、小さな子供を診察するのに欠かせない根気よさにつながっているのだと感じました。

(取材・川上)



2002年第13回トリアスロン珠洲大会  
女子7位(女子36~40才エイジ優勝)



2003年大阪国際女子マラソン  
ゼッケン「216」が太田さん

### 素顔は「やさしい歯医者さん」

太田さんの診察のモットーは「子供を歯医者さん嫌いにさせないこと」。慣れないうちは治療器具を使わず歯ブラシを手に診察するそうです。さらに「Tell, Show, Do」を実践。これは、鏡で口の中を見せて「今からお薬つけるね」などとつねに声をかけて治療すること。そしてちゃんと口を開けていられたらほめてあげる…。こんなやさ



2003年大阪国際女子マラソンでは  
ベスト記録を出した

毎日新聞に載るまで、その事実は存在しないことになっていた。

'03年度

### 自衛官募集に住基情報

健康状態など「18歳リスト」  
防衛庁 多くの自治体協力  
「自衛官募集に非公開の住基情報が使われている」。情報を渡していたのは、全国の自治体だった。粘りのスクープが政府や国会をも揺さぶった。

小さな事実の追及が、  
大きな事実を明らかにする。  
「防衛庁住基情報収集スクープ」

'02年度

### 防衛庁が請求者リスト

100人以上、身元調べ  
職業や所属団体も  
「情報公開」は知る権利のための制度だ。しかし、官はそれを「国民の身元調査」に使った。熱意のスクープが、隠された官の不正を暴いた。  
ひとりの人間として、  
おかしいと思う。  
記者として、書かねばと思う。  
「情報公開請求者身元調査スクープ」

歴史を、誤ったままに  
記者の信念が、事実を掘りあてた。  
「旧石器発掘ねつ造スクープ」

'01年度

### 旧石器発掘ねつ造

調査団長の藤村氏  
「神の手」をもつ考古学者が重なる世紀の発見。しかし、その手は汚れていた。3ヵ月もの入念な取材が、考古学研究者の歪みを浮き彫りにした。

'00年度

### 運転手きょう起訴

人間の命って、そんなに軽いのか。  
憤りが、悲しみが、取材を支える。  
「片山隼君事故キャンペーン」

書くことで、世の中を良くできる。  
そう信じる記者たちが、次の取材を始めています。



報道のグランプリ、新聞協会賞V4!

